

持続可能な

地域観光開発セミナー

～日本国内各地域とアジア各地域の事例から学び合う～



2016年9月23日(金) 14:00 - 17:00

りんかい線国際展示場駅下車徒歩7分

ゆりかもめ国際展示場正門下車徒歩3分

東京ビッグサイト会議棟 1 階会議室

参加費 無料 定員 60 名

お申し込み方法

下記ウェブサイトのフォームに必要事項を記入し、
お申し込みください

http://www.bhutan.jeef.or.jp/t_expo2016

※当日参加可能

セミナー講師紹介



小田 謙成

九州大学卒業後、昭和52年に農林水産省林野庁に入庁。国連食糧農業機関(FAO)派遣及び外務省勤務を経て、主として国有林野の経営に携わる。この間、屋久島等の世界遺産登録も担当。林野庁退職後、民間会社に勤務し、IICA専門家として、ベトナム、フィリピンに派遣。平成22年から25年までビズップヌイバ国立公園管理強化計画のチーフアドバイザーとして、エコツーリズムを含む自然資源の住民との間の協働管理構築に従事。現在、ベトナムの持続的自然資源管理計画のコンポーネント3のリーダーとして、同国立公園を中心とするランビエン生物圏保護区の自然資源の協働管理(エコツーリズムを含む)等の構築に従事。日本工営株式会社、副理事。



加藤 文男

1950年生まれ。1991年から12年間、千葉県南房総市にある『道の駅とみうら枇杷倶楽部』の計画立案から経営に携わり、特産の枇杷の商品開発と、ツアー客を誘致する「一括受発注システム」を稼働させて、地域振興に取り組む。2003年から、タイの産業界を拠点とする地域振興システムづくりに参画。2007年からは、ベトナム中部のクアンナム省での道の駅づくりに取り組む。(株)ちば南房総の代表取締役副社長。観光カリスマ、地域活性化伝道師。



山田 拓

株式会社社美ら地球 CEO、総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房クールジャパン・アンバサダー
イナカを巡る外国人向けプラットフォーム SATOYAMA EXPERIENCE を運営
外資系コンサルティング会社を退職し、足かけ2年にわたる世界のツーリズムを学ぶ旅を経て、飛騨古川に移住。里山や民家などの現存する地域資源を活かしたツーリズムを主とした数々の地域再生ソリューションをプロデュース。
平成24年地域づくり総務大臣表彰にて個人表彰を受けるほか、環境大臣賞(「五感で感じるまち大賞」、平成23年)、グッドデザイン賞(平成25年)、エコツーリズム大賞優秀賞(平成26年)など、多方面からの評価を受ける。近年、空き民家をオフィス用途に転用した「里山オフィスプロジェクト」にも着手。



鮫島 卓

株式会社エイチ・アイ・エス 専門店グループリーダー
立教大学大学院(観光学修士)。学生時代にはバックパッカーとして世界中を旅をし、H.I.S.入社後、海外旅行の販売・企画の経験した後、経営企画室でIR・PR・業務改革を担当。モンゴル建国800周年記念事業実行委員会事務局長として国際観光イベントの企画運営に従事。ハウステンボス再建事業でイベント企画実施及びツアー商品企画を担当。現在は持続可能な観光を目指すエコツアー、世界の社会問題を学ぶスタディツアー、障がい者・社会的弱者向けのユニバーサルツーリズムなどテーマ旅行を統括。「未知なる旅と世界を学ぶ」をコンセプトにした旅カレッジ主宰。観光開発コンサルタントとしてJICA国際協力や地方創生のプロジェクトにも従事。(敬称略)



田儀 耕司

オーストラリアのクィーンズランド大学で野生生物管理学を勉強。終了後に、環境庁(当時)、国際NGOのWetlands Internationalで勤務。ラムサール条約やアジア・太平洋渡り性水鳥保全戦略の環境教育・普及啓発にかかわる業務に従事。その後JICAで「ボルネオ生物多様性・生態系保全プログラム」の環境教育・普及啓発の専門家としてマレーシア・サバ州の環境教育政策の土台作り等に寄与した。2007年から現在の日本環境教育フォーラム国際事業部長を務め、人と自然が共存できる「持続可能な社会」の実現を目指し、2011年からブータンで地域が主体となったエコツーリズム開発にかかわる。

主催：公益社団法人 日本環境教育フォーラム／ブータン王立自然保護協会

協力：国連世界観光機関（UNWTO）

ツーリズム EXPO ジャパン

後援：ブータン政府観光局

JICA 地球環境部

JICA 東京国際センター



持続可能な 地域観光開発セミナー

～日本国内各地域とアジア各地域の事例から学び合う～

日本国内においては、近年ニューツーリズムの流れを通じ、地域の特色を生かした着地型の観光開発が盛んになってきていますが、国際的にも同様の傾向が見られ、地域の持続可能な開発と連動した観光開発が促進されています。本セミナーでは、このような世界的な流れを受けて、国内外における持続可能な観光開発のあり方について、日本国内の各地域とアジア各国の事例からその成功の秘訣を学びます。日本国内からは岐阜県に拠点を置く SATOYAMA EXPERIENCE の自転車ツーリズムによるインバウンド取り込みの事例や、千葉県南房総市の道の駅を核とした地域振興の事例、アジアからはベトナムの国立公園の着地型観光の事例や、ブータンの地域に根ざした観光開発の取り組みについて、ご紹介します。



◆ セミナー・プログラム

開会あいさつ 14:00-14:15	開会あいさつ(国連世界観光機関 ニアオフィサー熊田順一氏)	
事例1 14:15-14:30	ベトナム・ビズップ・ヌイバ国立公園 の取り組み(小田謙成氏)	国立公園内の自然観察やトレッキングと、コーヒー等地域の農産業も 巻き込んだ着地型観光開発の事例
事例2 14:30-14:45	岐阜県 SATOYAMA EXPERIENCEの 取り組み(株式会社美ら地球代表取 締役 山田拓氏)	自転車ツーリズムから展開されている地域振興、着地型観光の事例、 また自転車ツーリズムに関心の高い海外旅行者の取り込みの成功事 例
事例3 14:45-15:00	ブータンの地域に根ざした観光開発 の取り組み(日本環境教育フォー ラム国際事業部長 田儀耕司)	住民主導によるホームステイ、ガイドによる案内、観光運営の仕組み の成功例と課題
事例4 15:00-15:15	千葉県南房総市の取り組み(株式会 社ちば南房総 加藤文男氏)	道の駅とみうら枇杷倶楽部等、道の駅を核とした、着地型旅行商品の 開発や「一括受発注システム」による観光バスツアー誘致、特産の枇 杷を活用した商品開発など、地域振興の成功事例について。
休憩 15:15-15:30		
パネルディスカッション 15:30-16:30	パネルディスカッション	テーマ案:「アジアにおける持続可能な地域おこしの成功の秘訣」(パ ネリストは上記4名に加え、株式会社エイチ・アイ・エス 鮫島 卓氏)
閉会あいさつ 16:30-16:40	閉会あいさつ(日本環境フォーラム事 務局長 瀬尾隆史)	